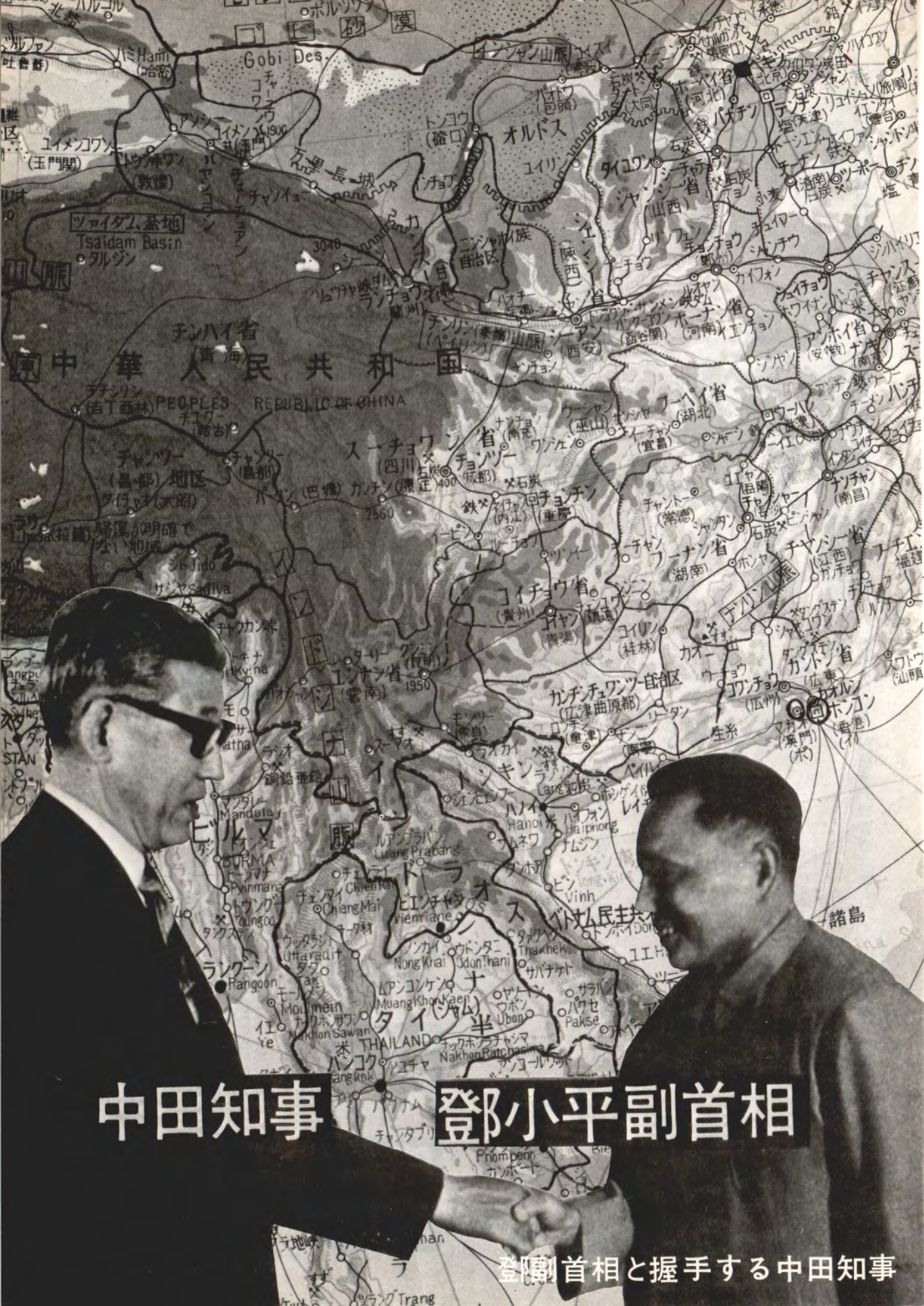


みんなの県政

1973/9
NO.57 富山





中田知事 鄧小平副首相

鄧副首相と握手する中田知事

九月の園芸—桔梗[キキヨウ]—

ききょう科の多年生植物。

秋、美しい青紫色(または白色)の、つりがね形で先が浅く五つに分かれた花が咲く。秋の七草の1つ。根を干したものはせき止めの薬。



みんなの県政
もくじ

対談 新しい中国.....	2
ふるさとはし.....	10
くらしを守る.....	12
くらしの知恵.....	18
県の特産物.....	19
トピックス.....	20

《表紙せつめい》

手うちソバ

ソバがいまのような麺状になるのは、朝鮮の元珍がつなぎにコムギ粉を使うことを教えてからである。

俗に二八ソバというのはソバ粉八にコムギ粉が二の配合を適量としたもの、手打ちと機械うちの差はこの原料の配合比率が異っている。機械でむりやり伸ばしたものと原料の個性を生かして配合したものとではソバの品質に差があらわれるという。

この店は独特の製法を客の面前でみせてくれる。

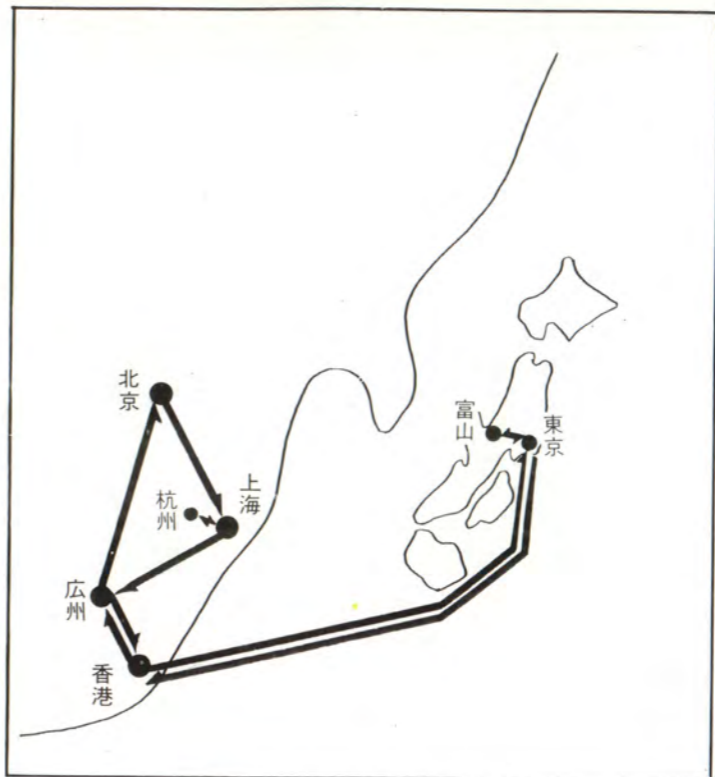


新しい中国

富山県知事 中田幸吉

ききて 玉木久雄

これは北日本放送で毎週日曜日、朝八時から八時三〇分まで放送している県の番組「みんなの県政」……中国から帰って八月十二日分を紙上再現したものです。



富山県訪中友好使節団は、北京を中心に広州、上海、杭州の各地を訪問し、鄧副首相をはじめ廖承志中日友好協会長、劉希文国貿促責任者らと会見し新しい中国をみてきました。

先月十九日、羽田を出発、十一日間の中国滞在を終えて無事帰国しました。そこで、団長として中国をみてこられた中田富山県知事にお話しを伺います。

挙国一致の建設 〓 北京 〓 明るくい表情で 徹底した教育

玉木 中国を訪問して、一番印象に残ったことはどんなことでしょうか。

中田知事 まず、道やいろんな所で出会う一般大衆の表情が明るいのにびっくりしました。

もうひとつは北京市内いたるところ建築ブームで大きな都市計画をやっています。建設に国民が一致して取組んでいる姿。あとの一つは、教育に熱心で、徹底した教育をやっていること、この三つが印象に残りました。

玉木 大変な歓迎をうけられたそうですね……。

中田知事 「紅旗」という中国製の最上級の車を提供してもらい、準国賓待遇をうけながら視察しました。視察日程が一日間でしたから、あわただしかったです。ですが、待遇や行事の進行などに大変気を配っていただきました。

喜ばれたチューリップ球根

玉木 このたびの富山県訪中使節団を中国側は大変あたたかく迎えてくれたようですが、北京飯店で開かれた廖承志中日友好協会長の招宴で、おみやげに何をプレゼントされたのですか。

中田知事 県の花チューリップの球根を六〇〇球ほど持っていきました。これは県のシンボルということで大変喜ばれました。そのほか井波の獅子頭、故松村さんのゆかりの地である福光の玉杯などをしました。

玉は中国が本場ですが記念として、廖承志さん、お会いできませんでしたが毛主席、周首相にも同じものをさしあげました。

玉木 招宴そのものはどうでしたか

中田知事 招宴には、先般富山を訪問した人びと、友好協会幹部、政府の外交部アジア局長などと二時間余りにわたり歓談しました。

玉木 こんどの主目的だと思いますが、中国要人との会見、中国人民大会堂で鄧小平副首相と会見なさいました。鄧副首相が日本の訪中団と会うのは文化大革命以後はじめてだそうですね。

中田知事 非常になごやかな雰囲気です。様々な要望をいたしました。

中国側は謙きよに自国のたち遅れていることに対しては学びかつ協力を得たいと再三言っていました。会見には小川駐中大使も同席されました。とくに日中の国交正常化はなったものの、協定や条約がまだ締結されてませんので、それらの促進方の協力要請がありました。

— 四つの要望を、

青年の船は五〇年に

玉木 知事は出発前、中国に四つほどの要望をしたといっておられました。まず青年の船の中国訪問について、

中田知事 青年の船は熱心に検討しても



登副首相と会見



らいましたが、日本から要望する県が多いのです。

中日友好協会が主体に昭和四十八年の後半から試験的にやってみようという事で三重県と兵庫県が実現するようです。

富山県は明後年には行けるでしょう。

ただ中国はホテルの整備が遅れているので青年の船は天津、上海の両港に停泊し、船を宿舍としながら一日行程で行ける各地を見学するという条件がついています。

玉木 経済文化の積極的交流ということはいかがでしたか。

中田知事 経済あるいは貿易団体の使節団を派遣したいとの文書を廖承志さんに事前に提出してあったので、今後の具体的日程などの連絡をとることで早々に実現するようです。

玉木 富山—中国の定期航路の開設はどうですか。

中田知事 戦前には天津と航路が開けて

たそうですが、現在、国と国の貿易協定ができていません。日中間の貿易協定が締結されれば当然日本海側の定期航路が必要になってくる。その段階で検討してゆくということでした。

漢方薬は中国も品薄

玉木 最後に漢方薬の原料の輸入をしたことについておられましたか。

中田知事 いまも若干輸入されていますが、ジャコウやセンソウなど特殊なものは品薄で配置業界は困っています。中国ではジャコウなどを増産中で要望に応じられるようになれば送りましようとの確約を得ました。

熱烈歓迎

玉木 お話を伺いまして、大変気持よく回ってこられたとの印象をうけました。全体として今度の訪中のまとめを。

中田知事 本日に熱烈歓迎でした。まあ気候も連日四〇度をこす熱熱さでしたが思ってたより感銘を受けたのは教育に対する考え方で理論と実践の合致に力を入れ、目的は指導者づくりでなく、優秀な

労働者をつくる方向に進められていました。小学校は日本の小学校よりレベルが高く感じられました。

玉木 日本と中国、そして富山と中国のむすびつきも盛んになり明るい方向にむかっていくようですね。

中田知事 今後、人の交流も盛んになるようですね。そういうものから出発して、あまりあせらず人間関係を基盤にした理解をすすめていかなければならないと思います。

(このあとしばらくは今度の視察日程とあわせ各地での印象を写真とともに紹介)



紫錦城、いまは「故宮」と呼ばれている。皇帝閱見の間 むかしのものですが立派です。



北京郊外にある万寿山、湖に浮ぶ石船。



広東市迎賓館の前で訪中国一行

「人民大会堂」 中国要人と会見する。わずか10カ月で完成したとのこと。



天安門前広場



広州から1時間ほどの「仏山」ここでは陶器が有名、古く5~600年くらいの歴史をもっている。

中国料理に欠かせないアヒル、生後から七カ月から八カ月で出荷できるようになる。中越人民公社には約四万人が働いている。

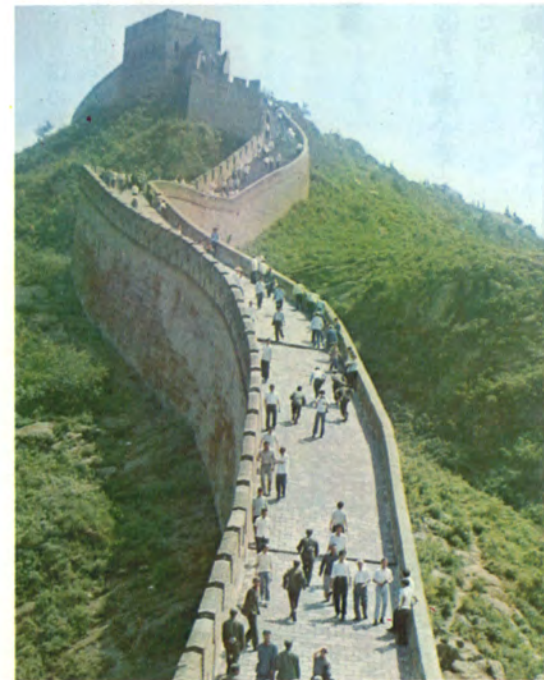


とらえた中国の姿



香港の九龍からいった「深圳」という国境の町。小さな橋をわたると、そこが国境、手前が香港の旗、遠くにみえるのが中国の国旗。

有名な万里の長城 入達嶺いまでは大変便利に行ける。



十三陵万曆帝のお墓の入口、大理石で造った動物の像が並んでいる。

中国とヴェトナムの友好関係を表わした名前をつけた人民公社。北京の黒ブタを飼育しながら成育状況もテストしている。





西湖には柳が多く、南画的な風景がつづいている。

上海の街、人口が密集した都会 朝は自転車のラッシュだが、自動車はマレにしか通らない。



黄浦江、上海の埠頭 白のはスウェーデン 黒いのはフィリピンの船



労働者のアパートの真中に学校があり、夏休み中で幼稚園の子ども達まで大歓迎してくれた。



マーケットに掲げてある「人民の為の服務」の看板 全ての商店はこれをモットーにしている。

マーケットの野菜は種類も豊富で新鮮



猪肉	075	猪肉	050
牛肉	071	猪肉	041
羊肉	024	猪肉	028
牛心	040	羊肉	023
牛肺	022	羊心	040
牛尾	030		

肉の値段表。牛肉は1斤 210円（日本円）豚肉で 270円（日本円）日本のおよそ10分の1の値段。



「天覽公園」皇帝が五穀豊穡を祈った場所

とさとの さるは しのは

愛本橋の名は古くから「日本三大奇橋」として後世にもわたり、詩歌にその「別橋」の印象が記されている。

その後、近代的な鉄の橋に変わったが昭和四十四年八月豪雨で流失した。

あつた「ニールセンロッセの工法」により、

橋長一三〇m、幅八・五mの橋としてそれが

あつた。



くらしを守る

守る！

昨秋の木材、今冬の大豆、綿花、羊毛、石油等の卸売価格が上昇したことから、建築、家具等の木製品、豆腐、納豆、繊維製品、ガソリン等が値上りしました。インフレ・ムードの拡まりとともに、私たちのくらしを守るために国や県に対して、強力な物価対策が望まれています。今回は県の物価対策にスポットを当ててみました。

はじめに物価上昇の現状とくらしの現状を、そしてその対策を。

従来は生産性の向上 最近は景気の過熱と国際情勢

物価上昇の原因

最近の物価のうごきを見ますと、①表のとおり、卸売物価が安定しているにもかかわらず、消費者物価が慢性的に上昇しているのが、つい数か月前までの特徴でした。しかし最近では、卸売物価も徐々に騰勢を強め、今や卸売、消費者物価ともに異常なほどの高騰を示すようになってきました。卸売物価が安定しているにもかかわらず消費者物価が昭和35年頃から上昇したのは、昭和30年代後半から、日本経済が高度成長時代に入り、合理化された生産性の高い部門に比して、中小企業や農林水産業、サービス業等、合理化しにくく、生産性が低い

部門の業種の生産品が、物価を押し上げるためでした。(②表参照) 私たちのくらしの中でも、家庭電気製品や化学繊維による衣類、自動車などは10年前も今も、大きな価格差がないのに比して、理美容料金、生鮮食品、家具、建具、日用雑貨等が大きく値上りしています。このようなことから、これまでの物価対策は、国でも、県でも、流通機構の合理化や、生鮮食品の需給バランスの確保に重点が置かれて来ました。しかし最近の卸売物価のうごきを見ますと、従来の物価上昇原因とは別に、新しい

要因が生まれているようです。国際情勢をさげられない。昭和30年代終り頃までの日本経済の好況は、国際収支Ⅱ外貨準備高の状況とイタチごっこでした。それが高度成長の結果として、我が国の経済力が強まるとともに国際収支が好転し、外貨保有高20〜30億ドルに低置していた時代から一五〇億ドル以上を保有するようになり、世界有数の黒字国となったのです。つまり、このことは国内的には、外国から得たお金が、日本円となって国内で流通していることと同時に、GNP世界第三位



物価上昇

卸売物価指数と消費者物価指数の推移表1

区分	卸売物価指数(全国)	消費者物価指数(富山市)
昭和30年	85.8	62.2
35	88.0	66.5
40	89.8	75.8
41	92.0	79.0
42	93.7	82.8
43	94.4	87.7
44	96.5	93.0
45	100.0	100.0
46	99.3	106.3
47	100.1	111.5
48年5月	111.3	122.8

表-2 消費者物価特殊分類別上昇率の推移 (44年版47年版経済白書より)

	上昇率		上昇寄与率	
	35~40年平均	46年度	35~40年平均	46年度
総合	6.2%	5.7%	100	100.0
農水畜産物	8.1%	1.9%	35	6.1
米	6.1	0.5	11	0.4
生鮮食品	9.7	2.5	24	5.7
工業製品	4.2	5.7	32	46.7
大企業性製品	1.5	3.1	4	12.1
中小企業性製品	5.7	8.2	28	34.6
出版物	-	15.6	-	8.0
サービス	8.1	7.0	33	39.2
民営家賃	10.6	8.1	4	3.7
公共料金	3.5	2.3	6	5.0
個人サービス	12.0	10.4	23	21.0
外食	-	10.0	-	9.5

の経済規模では、国際経済と密接なつながりを持つことになりました。そこで、物価の面から世界の情勢を見ると、
一、世界各国でインフレ傾向が出ている。
二、石油を始めとして資源の見とおしが暗い。
三、大豆、綿花、羊毛等の農作物が不作であった。
という現状があります。

このようなことから、資源不足の我が国では、海外から資源を輸入する場合、どうしても国内物価にその影響が出ることとなります。
昨秋の木材、今冬の大豆、ガソリン、春頃からの繊維製品の値上りは、一部に買占め云々が論議されたとはいえ、基本的には海外事情の反映といえるでしょう。ちなみにここ一年間の物価上昇を品目別に拾ってみると③表のとおりになります。
最近の物価上昇の原因は、一般的に
①景気の過熱(消費需要の過剰)
②過剰流動性(資産のダブつき)
③海外インフレの昂進
④世界的資源の枯渇
⑤農作物の世界的不作
といわれています。このようなことから、今回の物価対策は、一地方の果段階における施策より、むしろ政府の施策に負うところが大きいわけです。

表-3 主要品目の前年同月との価格比較 (48年6月富山市における価格) (富山県消費者物価統計連報より)

品目	値下がりしたもの	値上りしたもの	品目	値下がりしたもの	品目	値上りしたもの
食パン	△0.2%	米	31.6%	食パン	△27.8%	
食あたり	△6.4	もち米	18.1	食あたり	△15.9	
いかり	△9.3	ちぎれ	12.6	いかり	△15.1	
干しい	△30.6	いかり	15.5	干しい	△25.5	
煮干	△0.5	さき	35.3	煮干	△46.2	
鶏肉	△0.8	塩け	56.1	鶏肉	△12.4	
ほうれん	△9.0	さき	14.9	ほうれん	△34.2	
大豆	△27.8	鶏肉	34.4	大豆	△19.0	
なす	△37.9	鶏肉	10.7	なす		
あな	△0.8	鶏肉	17.4	あな		
こんに	△0.2	鶏肉	12.5	こんに		
さり	△2.5	鶏肉	14.8	さり		
レモン	△7.0	鶏肉	18.4	レモン		
カレー	△5.5	鶏肉	21.6	カレー		
ラジオ	△5.7	鶏肉	10.2	ラジオ		
電気洗濯機	△42.8	鶏肉	66.6	電気洗濯機		
電気冷蔵庫	△2.1	鶏肉	30.8	電気冷蔵庫		
		鶏肉	83.5			

金融引締めなど7項目 買占め防止法の制定も

政府の物価対策

最近の物価動向をみると、海外における物価上昇要因と国内の要因からみにより卸売物価、消費者物価ともに急騰したため、本年4月13日、物価対策閣僚協議会において7項目にわたる「当面の物価安定対策」また、8月31日には5項目にわたる「物価安定緊急対策」が決められ、いまその具体策が強力に進められています。

その第一は、**財政金融政策の弾力的運用**です。

これは、財政支出を繰り下げることや、金融を引締めることにより、需要(消費)を引延したり、抑えようとするものです。具体的には、年度内繰下げと8%支出繰延べするとともに、金融面では、4月23日に預貯金金利の引上げ、5月30日、6月16日、7月2日、8月末に公定歩合や預金準備率を引上げ、また貯蓄手段の有利な誘導策も考えられています。

次いで対策は、**輸入の積極的拡大等**を図ることです。

この対策は、輸入を拡大することによって商品の流通量を増やすとともに、国内で流通するお金を少なくしようというネライです。

輸入割当枠を前年度の30%増まで拡大するとともに、6月1日から加工木材、絹糸、女子用上衣類、下着、ハンカチ、ネクタイ等、110品目のシーリング枠の弾力的運用を決定しています。

第三の対策は、**変動為替相場移行に伴う物価安定効果の確保**です。

これは、為替円レートの上昇による利益

生活水準の向上をはかる

家計と物価

私たちの今のくらしをふり返ってみると、昭和30年頃は、テレビや、電気洗濯機のあるくらしが、随分うらやましいものでした。昭和30年代の前半の電機メーカーは、「三種の神器」として、白黒テレビ、電気洗濯機、電気掃除機を売り込み、30年代後半には3C時代と銘打って、カラーテレビ、自動車、クーラーの販売に企業戦略がかけられ、その後も新3Cを、そしてこれからは3P時代を鼓舞しています。

また「消費者は王様」「消費は美德」と吹聴され、どんどん新しい型の製品が販売されると同時に、私たちのくらしも、いつのまにか「三種の神器」が揃い、3Cが揃うようになっていきます。



家計支出パターンの変化

表-5 (富山県消費者物価報告書より富山市)

項目	昭和30年		昭和47年	
	金額	構成比	金額	構成比
消費支出	19,938 ^円	100%	90,754 ^円	100%
食糧費	9,634	48	29,163	32
主食	4,285	21	4,836	5
副食品	5,349	27	24,327	27
住居費	884	4	1,694	2
光熱費	828	4	3,153	3
被服費	2,654	13	10,860	12
雑費	5,938	31	40,882	51

消費者物価指数と賃金指数、一世帯当り年平均一か月間収入の推移

表-4 (毎月勤労統計及び富山県消費者物価報告書より)

区分	消費者物価指数	賃金指数	一世帯当り年平均一か月間収入(勤労者世帯)	
			実収入	世帯主の勤労収入
昭和40年	100.0	100.0	100 (65,047円)	100 (48,850円)
41	104.3	110.1	118	115
42	109.4	123.1	132	143
43	115.8	136.6	152	150
44	122.7	160.2	155	158
45	131.9	189.8	167	171
46	140.5	216.7	195	195
47	147.1	245.4	215 (139,784円)	212 (103,366円)

つまり、知らず知らずのうちに企業戦略にはまり込んでしまっていると同時に、消費を減らし、くらしをエンジョイするようになっていきます。

このようなくらしができる背景には、家庭の収入の増大があります。私たちの家計を総務府統計局の「家計調査」勤労者世帯を例にとると④表のとおりとなっています。つまり、昭和47年の実収入は、40年に比して15%の増となり、消費者物価の上昇率を差し引いても実質46%の増収となつていきます。

労働省が行なっている「毎月勤労統計調査」による賃金指数と消費者物価指数を見ても、賃金上昇率が消費者物価指数の上昇を上回っています。

このように、消費者物価が上昇しているにもかかわらず、私たちのくらしが新しい製品を吸収し、レジャーを楽しむことが出来るのは、賃金が上昇し、収入が増大しているからだと思います。

家計の支出面を見ると、⑤表のとおり、耐久消費財を保有し、レジャー等を楽しむ生活パターンの変化による、支出内容の変化が明らかになっています。

最近、非常に関心が高まっている物価上昇に対する認識も、かつての物資不足時代に対処した対策とは違った心がまえが必要であると同時に、向上した生活水準を維持するために、収入の増大を図りつつ、物価の安定を図るよう努めるという非常に難しい局面にあるといえましょう。

を消費者に還元させようというもので、政府が関与する外国タバコは5月25日に10%、40円値下げしたほか、日本発の国際航空運賃、国際電信電話料金についても関係国と協議することになっています。

また民間取扱いのバナナ、牛肉、カラーフィルム、万年筆等の輸入消費物資や、輸入原材料を主とした消費物資について、価格の追跡調査を行ない、輸入品の価格引下げを業界に要請することとしています。

なお輸入を一律にまかせることなく、複数商社による並行輸入が円滑に行なえるよう厳重に監視することとしています。

第四の対策は、**昨秋以来価格高騰している物資の対策**です。

これには木材、大豆、もち米、生糸、羊毛、綿糸等がありますが、これらは一時の価格ピークを越え、鎮静化しつつあります。なお下げどまり、または強含みに推移しているものもあるので、緊急輸入や、生産増強、商品あつ旋所の開設等の対策を進めます。

買占め防止法公布

なお、これらの商品には、投機の対象となる性質もあり、事実、買占め、売惜しみが行なわれて、価格が人為的につり上げられたこともあり、そのため、このようにな不当な行為を防止するため「生活関連物資の買占め及び売惜しみに対する緊急措置に関する法律」(通称「買占め、売惜しみ防止法」)が国会を通過し、7月6日に施行されました。

この法律の対象品目としては、次表大豆

等14品目が7月13日に閣議決定され、9月4日には灯油が追加指定されました。今後これらの品目で、買占めや、売惜しみが行なわれた場合は、売り渡し勧告を行ない、それに従わない場合は、新聞等に公表して社会的制裁を期することになります。

買占め防止法の対象品目

- 大豆・大豆油・大豆油かす・丸太・製材
- 合板・生糸・綿糸・綿織物・羊毛・粗毛糸・粗毛織物・絹織物・医療ガーゼ・灯油

第五の対策は、**消費者に対する情報提供**これについては新聞テレビ等のマスメディア、消費者との懇談会、国民生活センター等を通じて、正確な情報を提供して、物価についての消費者対抗力を育成し、便乗値上げ等の防止に役立てることとしています。

8月31日には、さらに新たに加った対策として民間設備投資および建築投資の抑制と消費者信用の調整があります。

先きの第一の対策は需要抑制を目的としたものですが、これをさらに効果的にするために、個別の需要抑制策を策定し、緊急を要しない、または是非必要でないものについては抑制しながら関連物資の需給バランスを保つていこうとしています。

これらの対策のほか、物価対策閣僚協議会を毎月開催し、以上の対策の実施状況を点検することや、各省庁の連絡を密にして、所管行政の責任体制を確立すること等が政府の当面の物価安定対策として強力に、推進されることになっています。

計量検査や不当表示の監視

県の物価対策

物価対策はとくに政府の強力な施策に負うところが大きいのですが、物価問題は国民の消費生活と直結した重大な問題です。そのため、政府の対策が早急に効果を発揮するよう期待するとともに、県としても、身近な問題で対処ができて得る限りの物価抑制策と取り組むこととしていきます。

1、生活必需物資の必要量の確保と流通

商品の価格は「需要と供給」の関係によって決まるといって大原則からみた対策です。特に生鮮食料品については、需給状況による価格変動の要素が大きくなっています。富山県では、鶏卵を除く他の生鮮食料品は県内生産量のみでは不足しており、他県からの移入によってまかなっています。ことに野菜は、年間を通じて60%は県外から移入しており、特に冬期間は約80%以上が県外移入となっています。

また、生鮮魚介についても、年間を通じて約70%の県外魚が移入されています。富山県は富山湾を控えていて、その大部分が湾内魚かと思いきや、さにあらずというのが実情です。

このような実体から、野菜については、生産団地の育成に力を注ぐとともに、共同栽培管理施設を設置、施設園芸団地の育成を図り、季節的にどうしても不足する時期には、需給見とおしをたてて計画的な県外移入の促進を図ることとしています。

また生鮮魚介については、計画的な漁獲をすることが出来ませんので、豊漁時に冷凍貯蔵をしておいて、必要な時に放出する

という。需給調節の実験事業を早急に実施する予定です。

これら青果物や魚介類の需給の安定と流通の円滑化を図るためには、中央卸売市場の機能が十分に果たされなければなりません。青果物については、ほぼ軌道に乗りませんが、魚介類の方は業者の入場が遅れておりますので、入場の促進を図るよう懸命の努力をしています。

牛、豚肉等の肉類については、養畜の肥育状況は把握することにより、およその需給見とおしを樹て、長期的な肥育指導を強化するとともに、移入促進を図ることとしていきます。

その他の商品で問題になるのは、冬期間における交通の確保と、越冬用必要量の確保ですが、除雪計画に万全を期すとともに生活用灯油等については、業者に協力の要請を行なうこととしています。

なお、今春来、入手難から一時異常高値を記録したセメントについては、特に一般家庭用のためにセメントあつ旋所を県庁内に設置し、小口需要者に対しあつ旋業務を行なっています。

このほか、県としては品目別、業種別に業者との懇談会を随時開催し、必需物資の確保と価格の安定について強力な要請を行なっています。

2、量目確保のための立入検査の強化

商品やサービスの価格の基礎は、それぞれの量目です。価格の変動がなくとも、量が足りなければ、実質では高いものを買

つたこととなります。

県では、このようなごまかし値上げを防止するため、6月から毎月1回、事業所への立入検査を実施することとしています。

6月検査では、三〇件のうち量目不足のもの六、三%、超過していたもの六、九%、七月検査では、不足していたもの七、三%、超過していたもの五、九%という成績でした。六・七月の検査では、豚肉(中)、菓子、麵類、みそ、お茶、ハム、ソーセージ、魚介類等について実施しましたが、今後はさらに品目を拡大し、立入検査の強化を図ります。

3、景品付販売や不当表示の指導強化

事業者が販売成績を上げるために、景品(オマケ)付販売を行ったり、広告、チラシ等によるPRが行なわれます。や、もすると過大景品で消費者をつつたり、事実でないことを記載した広告でだましたりする例があります。そのため商慣習が乱れ、その経費が商品価格に転嫁されることにもなります。

不当景品、不当表示について、四月七月の間に県では、取り止め指示をしたもの四件警告したものの七件など計三十三件の処置をしています。このような不当行為は物価対策上も好くありませんので、今後さらに指導を強化していきます。

4、その他の対策

このほか、小売業者の協業化・組織化の促進と経営指導の強化をはかるとともに県の物価問題懇談会を随時開催して効果的な対策について意見を聞くなど、県として実

施できるものについては、積極的に取り組む考えております。

消費者も対抗力が重要

賢い消費者づくりも対策の一つと考えております。

消費者も対抗力が重要
賢い消費者づくりも対策の一つ
前にも述べましたように、物の値段は「需要と供給の関係」で決まるのが基礎ですが、その需要面に関係するのが消費者自身なのです。

物が不足すると判れば、買いあさりたくなるのが私たち消費者心理というものです。不足商品に殺到すれば、ますます価格が上がることは当然のことです。

また、「便乗値上げ」だと判っていてもそれらしき値上げ理由を説明されて、「それもそうだな」と合づちを打っているのは、ますます便乗値上げを増長するだけです。

そこで、消費者は団結して(ひとりひとりでもよいが)「正確な知識と正しい判断のもとに、例えば買い控えや不買運動を起すなどすることがぜひ必要不可欠です。」

つまり消費者対抗力の発動というわけですが、これらの行動がない限り、需給関係の「需」の力が全然働かず、「給」の方の原因のみでどんどん価格の上昇が進んでしまうことになるからです。

そのため、消費者が賢くなることもぜひ必要となつて来ます。その方法としては、(1)まず、物価モニター制度を新設します。

消費者が自ら、物価に対する監視の目を光らせ、不当な値上げについて県に連絡してもらったり、物価調査に協力して、経験などを通じて、消費者の立場から物価対策についての意見を聞くという制度です。

富山市11名、高岡市7名、氷見市3名、他の市は各2名、町は各1名、合計50名を九月から発足させることにしています。

(2) 消費者が正しい商品知識を会得し、不買不急の商品の買い控えや、衝動買いの防止などを指導するため、消費生活センターを中心に、展示や講座等の中に随時物価問題をとり入れるとともに、毎月一、二回の移動消費生活センターや、「みんなの消費生活展」を十一月月上旬に開催します。

(3) 一部の農作物や天然資源等が世界的不足に直面していることに対処して、特に石油・電力等の節約運動を推進するほか、過剰包装の追放などの浪費の抑制を提唱することとしています。

(注) 私たちのくらしは、今や石油の中に埋もれているといつても過言ではありませぬ。自動車、電気は石油を燃料とし化学繊維・服飾品・食器・家具・包装容器・家具調度品等プラスチックやポリウレタン・ナイロン・ビニール等で出来たものは全て石油が原料だからです。石油は現在そのまま採掘されると、あと四百年位で掘り尽してしまうとも言われています。

富山市の品目別価格(7月)

品目	銘柄	単位	価格	6月かた上昇率(%)	品目	銘柄	単位	価格	6月かた上昇率(%)	品目	銘柄	単位	価格	6月かた上昇率(%)
あじ	(15cm以上) 丸	100g	72	30.9	鶏卵	1個	約60g	1kg	211	みそ	並、米みそ	1kg	190	0
さば	丸(25cm~35cm)	"	19	Δ13.6	ねぎ	"	"	167	7.1	砂糖	上、白	"	146	0
いか	するめいか	"	34	3.0	大根	"	"	91	62.5	食用油	天(450g)	1本	101	0
煮干し	(約6cm) かつくちわし上	"	※60	0	にんじん	"	"	205	17.1	ソー	中濃ソー	"	127	0
牛肉	中	"	205	0	ごぼう	"	"	180	Δ6.7	板材	ラワン材、たな板(1.4×21.0×180cm)	1枚	380	0
豚肉	中	"	130	0	玉ねぎ	葉玉ねぎを除く	"	77	Δ1.3	ベニヤ板	JAS、2類ラワン材	"	370	0
鶏肉	ブロイラー肉	"	90	0	豆腐	木綿ごし	100g	14	0	灯油	白灯油	18l	385	0
ハム	プレス(ハム)	"	138	0	油揚げ	薄揚げ	"	89	0	プロパン	家庭用(10kg)	1本	850	0
ソーセージ	ウイソー	"	83	0	納豆	糸ひき納豆	"	35	0	理髪料	(洗髪含む)大人	1回	963	0
牛乳	びん(200cc)	1本	31	0	こんにやく	板こんにやく	"	15	0	パーマ	(セットを含む)	"	1,850	0
バター	上、225g入	1箱	200	0	しょう油	(2l入)濃	1本	330	0	ガソリン	現金売り	1l	64	0

注) 生鮮食料品は上・中・下旬の平均価格、その他は中旬の価格です。Δ印はマイナスを示します。※印は共通な銘柄によって調査できなかった品目を示す。



ユニット プライシング

高い安いがよくわかる

と、それが安く、それが高いのかひと目で
見分けられます。これが単位価格表示です。

〈価格に真実をもたらすユニット
プライシング〉

トマト一山〇〇円。キウイ一パック〇
〇円といった売り方が多くなっています。
このような売り方は、なんとなく買得の
ような気がしてつい買ってしまいます。
しかし、目方や数量が表示してないので
すから、ほんとうに買得なのかどうかよ
くわからないはず。

量目と価格の関係がはつきりしないのは、
店頭の一山売りだけではありません。洗剤、
マヨネーズ、はみがき粉など、メーカーに
よって一容器あたりの数量も値段もまちま
ちです。はたしてどれが安いのか頭でそろ
ばんをはじめてみてもなかなかわかりませ
ん。

そんな中で注目をあびているのがユニッ
トプライシング(単位価格表示)です。

〈ユニット・プライシングとは〉
単位価格表示とは、単位重量あたりの価
格表示のことです。図のA、B、Cの各歯
みがきをみたとき、いったいどれがどのく
らい安いのかよく計算してみないとわかり
ません。

こういうとき、一〇〇グラムあたりに換
算したプライス・カード(値札)をつける

単位価格を表示することによって、商品
の単価比較が簡単にできるようになるだけ
ではありません。次のような利点がありま
す。

(1) 徳用サイズはほんとうに徳用なの
だろうか。

「徳用サイズ」とか「ホームサイズ」と
して売られている大型のものは、なんと
割安だと思いついて入っている面がありま
す。しかし、ほんとうにそうなのでしょ
うか。

尼崎市やその他の地域で調査した結果、徳
用サイズがかならずしも買得ではないと
いうことがわかりました。

(2) 目に見えない値上げがわかる。

量目やデザインを変えて、目立たない方
法で商品を値上げすることを防止する役割
も果たします。

(3) 生鮮食品の一山売りの値段もは
つきりわかる。

生鮮食品の場合、一山いくら、一パッ
クいくらなどの均一販売がふえています。
この均一販売は、同じ値段が表示されてい

ても、店により、日により価格に違いがあ
ります。ほんとうにどの店が安いのか極
端な違いがない限りはほとんどわかりませ
ん。

〈ユニット・プライシングの問題
点〉

ユニット・プライシングを実施するには、
手数がかるため、業者が表示しただけなら
いととも、価格に手数料がはねかえつて
くるということも考えられます。

また、単価計算の基礎となる量目がしつ

かりしてなければなりませんし、各メー
カーによって、グラムで表示したり、ccで
表示したりしているのも統一しなければな
りません。
実施するにはまだまだ問題もっている
ユニット・プライシングですが、消費者の
「知る権利」「選ぶ権利」に応えるもので
す。
「よりよい商品をより安く」買うための
商品情報として、その実施をすすめてゆく
必要があります。



県の特産物

● 呉羽の梨 ●



毎年八月に入ると、国道8号線の呉羽地内沿
線には、梨の直売所が多く並んで通りゆくドラ
イバーの皆さんに好評を博しています。
また、八百屋さんの店先に梨が出廻り始める
のもこの頃からですが、今回はこの呉羽の梨に
ついて紹介したいと思います。

● 沿革

呉羽に梨が導入されたのは、明治四十年に土
池弥次郎氏が東京より苗木を購入して、吉作地
内の水田に植えたのが始まりとされており、そ
の功績をたたえた記念碑が吉作地内に建立され
ております。その後、多くの農家において梨栽
培の有利性が認識されて面積も増加しましたが、
戦時中の食糧増産運動のための強制伐採や、三
十八年の豪雪の被害をはじめとする多くの障害
にもめげず、農家の不とう不屈の精神により現
在のような一大産地に発展しました。

● 生産と出荷

昭和三十七年から昭和四十一年までは老田地
区で、昭和四十二年から昭和四十五年までは吉
作、住吉、花の木地区でそれぞれ農業構造改善
事業を実施して、トラクター、大型防除機、梨
選果機などの導入を図って主産地化に努めてお
ります。さらに、昭和四十七年から三カ年計画
で、小杉町、大門町の梨を含めた、広域生産出
荷の一元体制の確立をめざした果樹広域主産
地形成事業により第二選果場の建設や、集荷所
を設置して流通体制の整備を図り、新鮮でお
いしい梨を迅速に市場に出荷するよう事業を実
施中でありま

す。呉羽梨の主な出荷先は、約五十三パーセント
を県内市場へ、次いで金沢市場へ一七パーセン

ト、関西市場へ一三パーセント、さらに直売が
一九パーセント、となっており、とくに近年は
県外市場において「富山の梨はおいしい」と好
評で注文に応じきれない程です。

● 行事

毎年九月の中旬に梨祭りを催し、「梨娘」が
富山駅で急行列車の乗客に梨の無料サービスを
するほか、消費者に直接新鮮な梨をもぎとって
もらうといった梨狩り園なども設けて「呉羽梨」
の宣伝に多大の努力を傾けております。

● 品種

いままで、「長十郎」という品種を主体とし
て栽培されてきましたが、近年になって、甘み
が強く、水分が豊富で、肉質の良い新しい品
種である「幸水」が栽培され、消費者の皆さん
にたいへん喜ばれております。「幸水」は栽培
されてから間が短いので、生産が消費に追いつ
かない現状です。しかし、農家も「幸水」の増
産に努めており、次第に豊富に八百屋さんの店
先に出廻るものと期待されております。

トピックス

●県政のうごき●7月11日～8月10日

●水底土砂と白エビ分析

県は、伏木港と伏木港沖の底質土砂、新湊と岩瀬漁場の白エビの水銀分析した結果、伏木港の土砂から最高1.6、最低0.4PPM、沖合いで最高1.2、最低0.01PPMの総水銀を検出。

白エビは両漁場で0.06から0.03PPMの総水銀を検出したと発表した。

●夏山登山警告

県警察本部は、立山・剣岳は残雪が多く落石多発で単独登山しないよう、夏山警告第一号を出した。

●広告研究会

誇大な広告、不当な表示や景品付販売をなくし、物価対策と消費者保護をはかろうとする「不当景品類及び不当表示防止法」の広告研究会がデパート、スーパー、宅地建物取引業、広告代理店などを対象に三日間開催された。

●8号線バイパス

国道8号線富山-高岡バイパスのうち、小杉町稲積-同町小白石間(2.1km)の開通式が行なわれた。これで富山市豊田-高岡市江尻間(20km)が全部開通し残るは富山市豊田-同市金泉寺と高岡市江尻-同市四ツ屋を残すだけとなった。

●ブラジルへ県青年の船

来年度の県青年の船は昭和49年10月、ブラジルとアルゼンチンを訪問、団員は60名と決まった。

7月12日

7月13日

7月16日

7月19日

7月20日

7月20日

7月30日

7月31日

8月4日

8月5日

8月5日

●立山の雪を大阪へ

大阪市民に立山の涼しさを味わってもらおうと県自然保護室、富山営林署の協力で、立山の残雪5トンを堀り出し、冷凍コンテナで大阪へ直送した。

●ブラジルの県人来県

県は、置県90周年を記念して南米各国やハワイから富山県人会のひとたちを招待した。その第一陣としてブラジルの一行15人が来県、ブラジルの名産、紫水晶の原石を県にプレゼントした。

●黒部青少年の家完成

黒部青少年の家が完成、8月3日から一般に開放された。青少年の家は「有峰」「二上」について3つ目。黒部市郊外の阿古屋地内の高台に建てられ研修に192名が宿泊できる。

●施設へ寄附金 5,000万円

恵まれない人々の社会復帰や更生のために役立ててくださいと、金融機関から県内11カ所の社会福祉施設に総額5,000万円が寄附された。

●沢杉が国指定に

入善町吉原地区の沢杉林(約2.7ヘクタール)が国指定天然記念物に指定された。

●身障者体育大会

第11回富山県身体障害者体育大会は、県営陸上競技場で開催された。不自由なからだに負けず元気一ぱいのプレーを展開し、4つの日本新記録が出た。



“谷間に光を”



しあはれは
笑いと